



中央地区市政懇談会 大手公民館で4年ぶりに開催！

8月2日(火)、中央地区の住民と菅谷松本市長ら市幹部が地域課題について意見交換する「中央地区市政懇談会」が大手公民館で開催されました。

住民の皆さんからは市立博物館の移転によって松本城大手門駐車場(北側)の平面駐車場が失われ、その代替地となる場所確保の問題、松本城南・西外堀復元や「内環状北線」整備事業、老朽化した市役所の新庁舎建設問題に関する意見や質問などができました。

また中央地区の町会長を中心に、まちづくり検討委員会の皆さんが作成したビデオを上映しましたが、これまでにない新しい発想での要望に、市長はじめ市幹部の皆さんも関心を寄せていました。

4年ぶりに開催された懇談会は予定の1時間半を15分以上延長しましたが、参加され

た80人余の皆さんは中央地区の将来、また市政の目指すべき方向性について真剣に耳を傾けていました。



懇談会冒頭で挨拶する菅谷市長 (中央)



参加者は80名を超えました

「松本城の床みがき」 に参加して

小笠原 友信 (小柳町会)



松本城の床みがきをする参加者

縁あって中央地区に住むようになって7年目を迎えるようになっていますが、国宝松本城の近くに居住していると、四季の変化に絶妙に調和した松本城に接することができ、何とも嬉しさを覚えています。松本市の宝ともいえる松本城を末永く後世に残していく事は、松本市民全体の責務と感じています。

今般、公民館の主催で松本城管理事務所の協力を得て、「松本城の床みがき」に中央地区の皆さんとご一緒に全3回参加しました。クルミと、こぬかの混ざったタンポンで床や柱を叩くと黒く輝きを増す様に触れ、充実感にあふれる一時でした。

また、作業後に学芸員の方から松本城の歴史や変化が予想される二ノ丸地区の今後や佇まい等の話を伺い、大いに参考になりました。

最近、松本城を訪れる外国人がすくなく増えていると感じますが、早く世界遺産になり、もっと世界中の多くの人に来てほしいとの思いを新たにしました。床みがき作業でした。

七夕まつり・コンサート

参加者から



七夕コンサートに出演された伊藤訓子さん(左)と川村佳子さん(右)

8月3日(水)、大手公民館で開催された「七夕まつり・コンサート」に今回初めて参加しましたが、親子共々とても楽しい時間を過ごさせていただきました。

松本の伝統食である「ほうとう作り」では健康づくり推

進員の皆さんに丁寧を教えてもらいながら、2歳の娘と一緒にお手伝いさせていただきました。普段から料理好きの娘は、いつになく真剣な顔で生地を伸ばしたり、包丁で生地を切ったりと、とても没頭して調理を楽しんでいたようです。

コンサート後の試食会ではあつという間にペロリと完食。口の周りにあんこをたくさんつけながら「おいしかったね!」と言っていました。

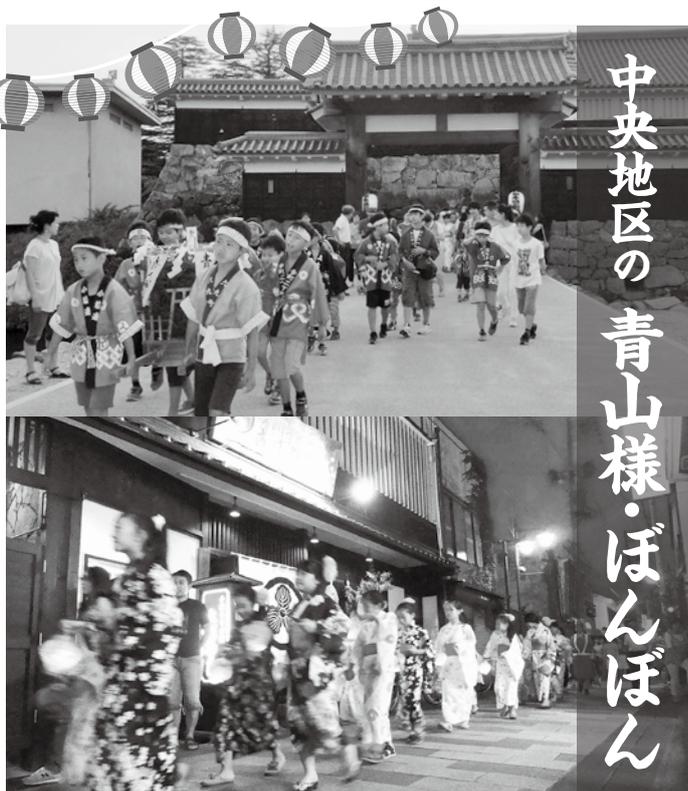
県外出身の私自身も松本の伝統的な七夕を知る機会を持って、とても貴重な体験となりました。来年はぜひ自宅でもほうとう作りに挑戦してみたいと思います。

このような会を開いて頂きまして、本当にありがとうございました。



ほうとう作りに初挑戦!!

中央地区の青山様・ぼんぼん



中央地区の青山様・ぼんぼんが、8月8日(月)に開催されました。

午後6時から博物館前で開会式を行った後、太鼓門をくぐり、男子の青山様を先頭に、女子のぼんぼんが続きましました。

青山様・ぼんぼんは、江戸時代末期頃から城下町の親町三町である本町、中町、東町を中心に始まったといわれますが、少子化によって青山様・ぼんぼんは一時すたれた時期もあったそうです。しかし、市民有志による保存伝承を目

的とした会によって、ぼんぼんの歌の講習会を開くなど会の努力が実り、近年では他地区でも盛んに行われている行事です。

そんな伝統ある行事を沿道から見守ろうと、地元住民の皆さんや店を構える店主から大きな声援やカメラのフラッシュを浴び、参加した子どもたちは掛け声合わせて頑張つて歩く姿が印象的でした。参加者は、男子25名、女子38名、幼児14名、大人47名、役員8名の合計132名でした。

松本城の野鳥たち ③6

ツグミ



写真は久保田佐久良さん(岡田在住)が、松本城の内堀で撮影

ツグミはツグミ属に分類される鳥類です。10月ごろシベリアから大群で渡ってくる冬鳥の代表です。日本に着くと群を解いて田畑や低い山の林に散らばって生息し、3月なかばごろになると再び北へ帰ります。

食性は雑食で、昆虫や果実を食べます。冬鳥なので日本ではさえずりをしません。そこで冬には口をつぐんでいる、それをツグミと呼ばれるようになったといわれています。

長元坊チョウゲンボウ

8月の第1週から第3週の水曜日と金曜日の計6回、上土のふれあいホールにて「寺子屋×課外学習」という企画を行いました。小学生を対象とし、各回とも前半は夏休みの宿題をやる時間、後半はお茶のお作法や、おやつ作り、工作などをしました。後半の内容については、上土の方々や学生に協力をしていただきました。



切り花に挑戦する小学生の皆さん

この企画の目的としては、子どもたちが宿題をやる場所をつくることで、親御さんがゆっくり過ごせたらという事と、この企画を通して子どもたちが上土へ足を運ぶ機会が増えたらいいなという発想によるものでした。今回が初めての試みだったので最初は不安だらけでしたが、先生から助言をいただいたり、上土の方々や学生同士で何度も話し合いをしたりする中でだんだんと道がひらけていきまし

た。参加してくれた子どもたちも楽しんだ様子で「また来年もやってね」と言われた時は本当に嬉しかったです。

そして何より、私ひとりでは絶対に成功しませんでした。協力し、参加していただいた皆さんのおかげで気がついたこと、感じられた事ばかりです。

白戸ゼミの活動では人とのつながりの大切さを感じる機会が多いです。今後もこの気持ちを大切に活動していくと共に、寺子屋の活動も続けたいです。



松本大学

観光ホスピタリティ学科4年

中島 麻衣